TSE:9531

2019年度（2020年3月期）
第3四半期決算説明会

TOKYO GAS

2020年1月30日

1．2019年度第3四半期決算実績概要

2019年度3Q実績(連結)(2019.4.1 - 2019.12.31) <対前年同期実績>

TOKYO GAS

ポイント 増収減益

(+ - ,+/▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高 +354 :
- \+ 電力 (+580 : 小売件数増による販売量増 等)
- \+ ガス (+77 : 都市ガス数量減▲429、原料費調整に伴う都市ガス単価増+29、託送供給収益+108、LNG販売+385 等)
- \- 海外 (▲63 : 上流プロジェクト売上減 等)
- \- エネルギー関連 (▲41 : 受注減による売上減 等)

営業費用 ▲85 :
- \- 電力 (▲564 : 小売件数増による販売量増、固定費増 等)
- \+ ガス (+223 :フレーム影響等に伴う都市ガス単価減+277、都市ガス数量減+315、LNG販売▲355 等)
- \+ エネルギー関連 (+55 : 受注減による費用減 等)

営業利益 +270 :
- \+ ガス (+299 : 単価差+306、数量差▲114、託送供給収益+108 等)
- \- 海外 (▲48 : 上流プロジェクト利益減 等)

特別損益 ▲368 :
- \- 当期 ▲80: 減損損失▲80
  前期 288:固定資産売却益291、投資有価証券売却益62、投資有価証券評価損▲65

(単位: 億円)

	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%
都市ガス販売量(百万m³, 45MJ)	9,923	10,637	▲714	▲6.7%
電力販売量(百万kWh)	14,158	10,998	3,160	28.7%
(内訳) 小売(百万kWh、需要端)	5,766	4,295	1,471	34.3%
(内訳) 卸他(百万kWh)	8,392	6,703	1,689	25.2%
売上高	13,620	13,266	354	2.7%
営業費用	13,073	12,988	85	0.6%
営業利益	547	277	270	97.4%
ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益(営業利益+持分法損益)	593	298	295	99.2%
経常利益 …①	569	262	307	117.1%
特別損益	▲80	288	▲368	—
親会社株主に帰属する当期純利益	336	346	▲10	▲2.9%
(補正項目) 気温影響 …②	*▲32*	*▲106*	*74*	—
(補正項目) スライドタイムラグ …③	*50*	*▲299*	*349*	—
(補正項目) (都市ガス+LNG販売)	*(34+ 16)*	*(▲272 + ▲27)*	*(306 + 43)*	
(補正項目) 年金数理差異償却額…④	*▲57*	*▲34*	*▲23*	—
補正経常利益 …①-(②+③+④)	*608*	*701*	*▲93*	*▲13.3%*

経済フレーム	為替レート(¥/$)	原油価格($/bbl)	平均気温 (℃)
2019年度3Q	108.65(▲2.49)	67.83(▲7.16)	19.5(▲0.8)
2018年度3Q	111.14	74.99	20.3

( )内は対前年同期増減

年金	運用利回り ※ｺｽﾄ控除後	期末資産 (億円)
2019年度3Q	2.76%	2,650

期待運用収益率:2%

2019年度3Q実績（連結） ガス販売量・件数＜対前年同期実績＞

都市ガス販売量

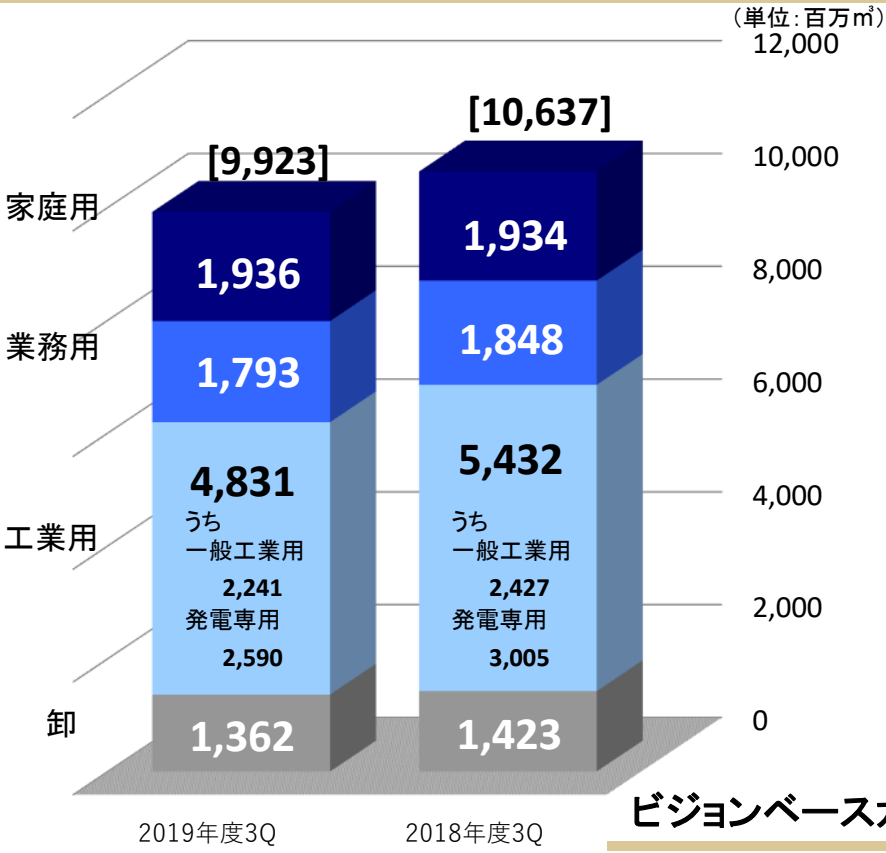
▲714百万㎥（▲6.7%）の減少
[うち気温影響 +94百万㎥，+0.9%の増加]

■ 家庭用　+2百万㎥（+0.2%）
- 気温要因　+103百万㎥
- 日数影響　+0百万㎥
- お客さま件数　▲132百万㎥
- その他　+31百万㎥

■ 業務用　▲55百万㎥（▲3.0%）
- 気温要因　▲17百万㎥
- 日数影響　▲4百万㎥
- お客さま件数　▲43百万㎥
- その他　+9百万㎥

■ 工業用　▲601百万㎥（▲11.1%）
- 一般工業用　▲186百万㎥
- 発電専用　▲415百万㎥

■ 卸　▲61百万㎥（▲4.3%）
- 気温要因　+8百万㎥
- その他　▲69百万㎥
  卸供給先の需要減等



ビジョンベースガス販売量（百万m3）

	2019年度 3Q実績	2018年度 3Q	増減
都市ガス販売量	9,923	10,637	▲714(▲6.7%)
トーリングによるガス自家使用量	1,545	1,329	+216(+16.2%)
LNG販売量（m³換算）	1,079	878	+201(+22.9%)
合計	12,547	12,844	▲297(▲2.3%)

件数、LNG販売量、平均気温

	2019年度 3Q実績	2018年度 3Q	増減
小売お客さま件数（万件）※1	925.9	998.2	▲72.3(▲7.2%)
取付メーター数（万件）※2	1,190.5	1,177.0	+13.5(+1.1%)
LNG販売量（千t）	863	702	+161（+22.9%）
平均気温（℃）	19.5	20.3	▲0.8

※1.ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数（過去の推移はP．21参照）
※2.休止中・閉栓中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数

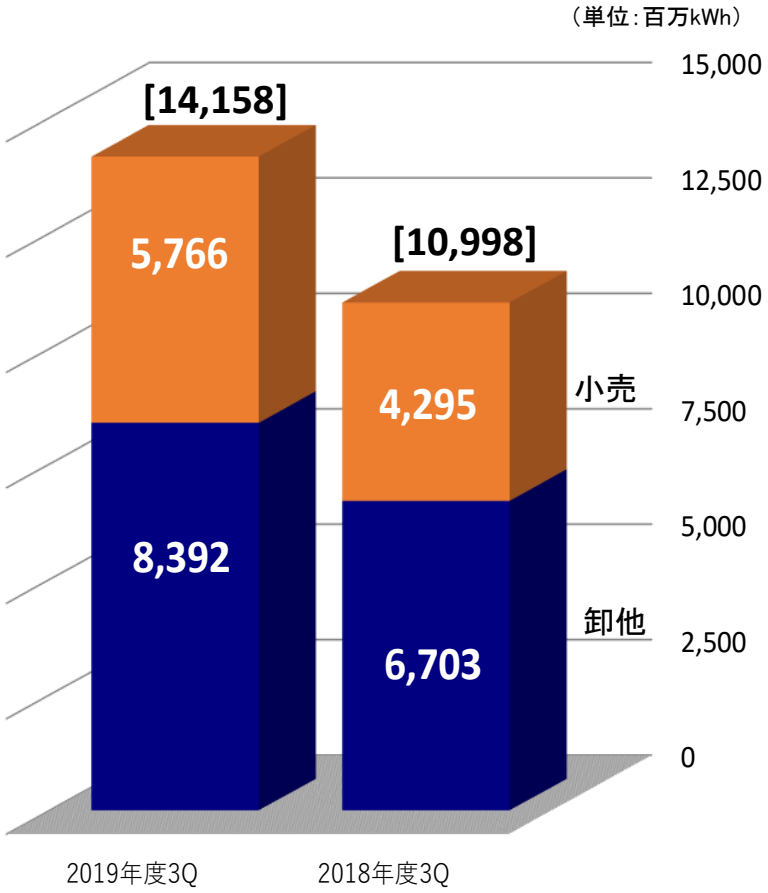
2019年度3Q実績（連結） 電力販売量・件数＜対前年同期実績＞

TOKYO GAS

電力販売量

+3,160百万kWh (+28.7%)の増加

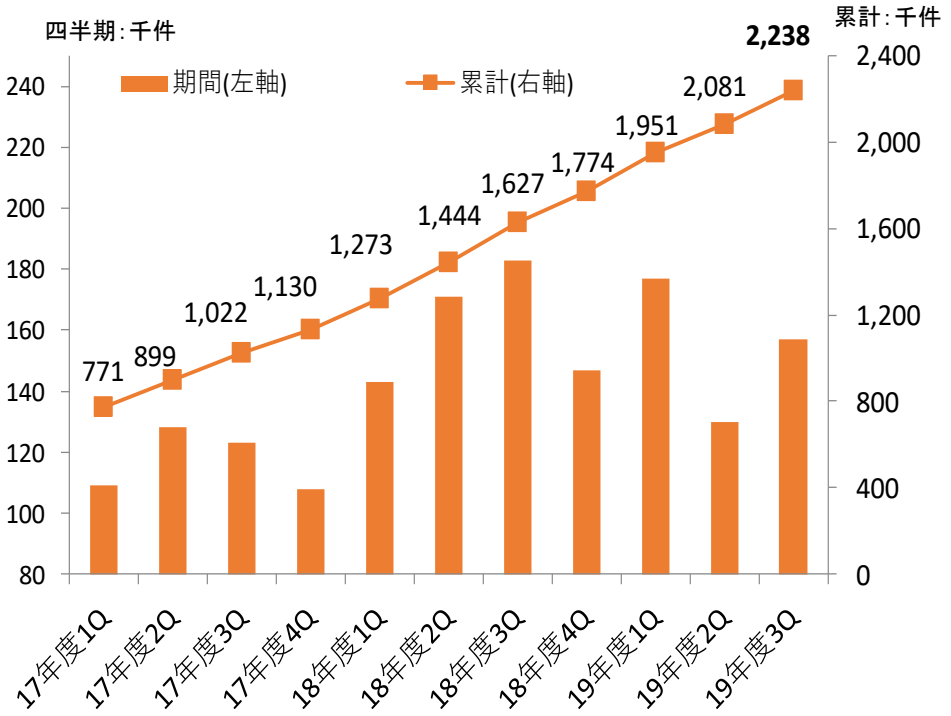
- 小売　+ 1,471百万kWh(+34.3%)
- 卸他　+ 1,689百万kWh（+25.2%）



※各項目は四捨五入して表示

小売件数実績

※小売件数＝供給中件数



「キャンペーン」　実施期間

2019年度　春：2019/ 5/ 2～2019/ 5/31
　　夏：2019/ 6/17～2019/10/ 8
　　秋：2019/10/15～2019/12/23
　　冬：2020/ 1/ 6～2020/ 4/30
2018年度　夏：2018/ 7/13～2018/ 9/26
　　秋：2018/10/22～2018/12/17
　　冬：2018/12/26～2019/ 4/10

2019年度3Q実績 セグメント別売上高・セグメント利益＜対前年同期実績＞

（単位:億円）

	売上高				セグメント利益（営業利益+持分法損益）			
	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%	2019年度3Q	2018年度3Q	増減	%
ガス	9,553	9,476	77	0.8	561	262	299	114.2
（都市ガス）	8,073	8,333	▲260	▲3.1	524	249	275	109.7
（LNG販売）	1,181	796	385	48.4	36	6	30	472.1
電力	2,497	1,917	580	30.2	51	36	15	43.4
海外	339	402	▲63	▲15.7	111	134	▲23	▲17.5
（持分法損益）	—	—	—	—	40	16	24	145.9
エネルギー関連	2,449	2,490	▲41	▲1.7	117	104	13	12.8
（ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ）	949	973	▲24	▲2.5	37	40	▲3	▲8.0
不動産（持分法損益含む）	337	332	5	1.5	84	72	12	16.9
その他（持分法損益含む）	852	726	126	17.4	36	30	6	19.8
調整額	▲2,409	▲2,080	▲329	—	▲369	▲342	▲27	—
セグメント合計	13,620	13,266	354	2.7	593	298	295	99.2
（持分法損益）	—	—	—	—	46	20	26	123.4

注記:
- セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
- 「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売を含みます。「エネルギー関連」には、ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。
- セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

2019年度3Q実績 経常利益分析 ＜対前年同期実績＞

TOKYO GAS

2019年度
（3Q実績）
569億円

差異
+307億円
（+117.1%）

2018年度
（3Q実績）
262億円

※符号は利益に対する影響を示す

セグメント利益
+295億円
（+99.2%）

営業外損益
+11億円
※持分法損益除く

ガス
+299億円
（+114.2%）

- ●都市ガス +275億円
  - ・粗利増 +331億円：数量差▲114(内気温影響数量差 +74)、スライド差+306、託送供給収益 +108 等
  - （売上高）▲260億円：数量差▲429、スライド差 +29、託送供給収益 +108 等
  - （原材料費等）+592億円：数量差 +315、スライド差+277
  - （内：為替 +73、油価 +171）
  - ・固定費増 ▲57億円：諸給与・諸経費増▲43（システム稼働に伴う費用増▲34、退職手当増（年金数理差異等）▲21、需要開発費減+15）、減価償却費増▲17（システム稼働影響 等）
- ●LNG販売　+30億円：スライド差 +43　等

電力
+15億円
（+43.4%）

- ●小売販売量増等に伴う粗利増
- ●固定費増（小売販売経費増、システム関係費増、発電所試運転費用増　等）

海外
▲23億円
（▲17.5%）

- ●上流プロジェクト利益減
- ●持分法利益増　+24億円：中下流プロジェクト利益増

エネルギー関連
+13億円
（+12.8%）

- ●器具・工事 +8億円　等
- ●エンジニアリングソリューション ▲3億円：システム稼働に伴う費用増　等

不動産
+12億円
（+16.9%）

- ●賃料収入増 等

その他
+6億円
（+19.8%）

- ●船舶　+5億円：稼働増に伴う利益増　等

連結調整等
▲27億円

- ●全社費用増 ▲30億円：諸経費▲21(システム関係費増 等)、退職手当▲7（年金数理差異 等）等
- ●連結調整 +2億円

- ●受取配当金増　+27億円、投資有価証券評価損▲19億円　等

2. 2019年度　通期見通し

2019年度見通し(連結)(2019.4.1 – 2020.3.31) <対前回見通し>

TOKYO GAS

ポイント:対前回見通しで減収・利益変更なし

(+ - ,+/▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲210 : - ガス	(▲315 :都市ガス数量減、フレーム影響等に伴う都市ガス単価減　等)
営業費用	+210 : + ガス	(+316 : 都市ガス数量減、フレーム影響等に伴う都市ガス単価減、諸経費減　等)
営業利益	±0 : - 海外	(▲18 :上流プロジェクト利益減)
	+ その他	(+11: 船舶費用減による利益増　等)
特別損益	▲4 : - 減損損失	(▲4:今回見通し▲80、前回見通し▲76)

(単位: 億円)

	見通し	前回見通し	増減	%	前年度実績	増減	%
都市ガス販売量(百万m^3, 45MJ)	14,069	14,293	▲224	▲1.6%	15,198	▲1,129	▲7.4%
電力販売量(百万kWh)	20,387	20,057	330	1.6%	15,482	4,905	31.7%
売上高	19,740	19,950	▲210	▲1.1%	19,623	117	0.6%
営業費用	18,610	18,820	▲210	▲1.1%	18,686	▲76	▲0.4%
営業利益	1,130	1,130	0	0.0%	937	193	20.6%
ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益(営業利益+持分法損益)	1,185	1,180	5	0.4%	964	221	22.8%
経常利益 …①	1,140	1,140	0	0.0%	893	247	27.5%
特別損益	▲80	▲76	▲4	—	278	▲358	—
親会社株主に帰属する当期純利益	770	770	0	0.0%	845	▲75	▲8.9%
補正項目 *気温影響 …②*	*▲32*	*▲2*	*▲30*	—	*▲141*	*109*	—
スライドタイムラグ …③ (都市ガス+LNG販売)	*▲5 (▲14 + 9)*	*▲21 (▲24 + 3)*	*16 (10 + 6)*	—	*▲250 (▲224+▲26)*	*245 (210+ 35)*	—
年金数理差異償却額 …④	*▲76*	*▲76*	*0*	—	*▲46*	*▲30*	—
補正経常利益 …①-(②+③+④)	*1,253*	*1,239*	*14*	*1.1%*	*1,330*	*▲77*	*▲5.8%*

経済フレーム	為替レート(¥/$)	原油価格($/bbl)	平均気温 (℃)
2019年度見通し	109.00 (▲0.31)	68.42 (▲1.08)	16.2(+0.2)
前回見通し	109.31	69.50	16.0
前年度実績	110.92	72.12	17.0

*4Q以降:原油価格70.00$/bbl、為替レート110円/$　　( )内は対前回見通し増減

年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率		期末資産 (億円)
		年金分	一時金分	
2018年度	1.65%	0.156%	0.000%	2,670
2017年度	1.03%	0.293%	0.046%	2,710
2016年度	1.57%	0.389%	0.055%	2,770

2019年度見通し（連結） ガス販売量・件数

TOKYO GAS
※各項目は四捨五入して表示

都市ガス販売量

対前回見通し

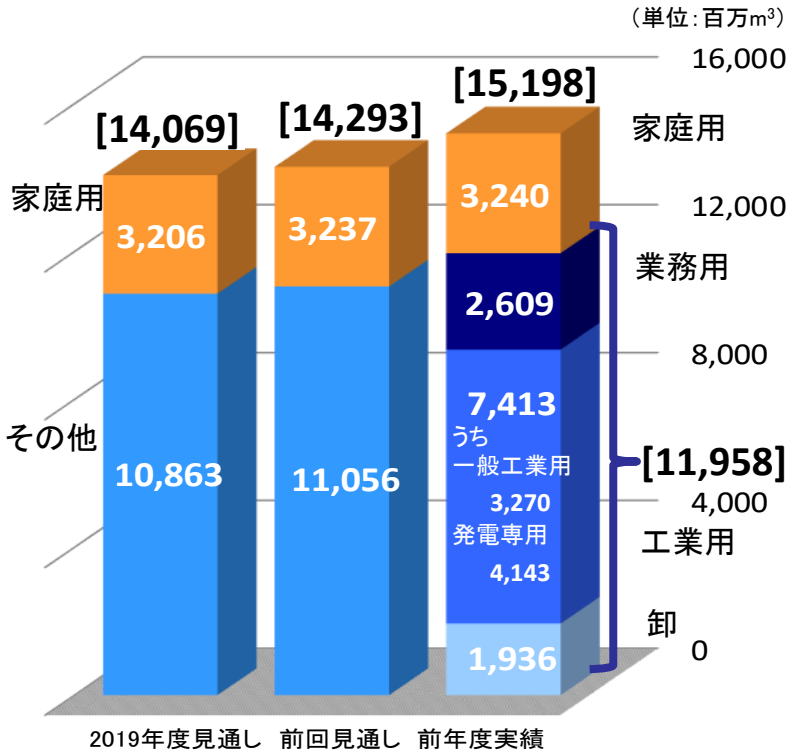
▲224百万㎥（▲1.6%）の減少
[うち気温影響▲47百万㎥、▲0.3%の減少]

- 家庭用　▲31百万㎥（▲1.0%）
- その他　▲193百万㎥（▲1.7%）

対前年実績

▲1,129百万㎥（▲7.4%）の減少
[うち気温影響+154百万㎥、+1.0%の増加]

- 家庭用　▲34百万㎥（▲1.1%）
- その他　▲1,095百万㎥（▲9.2%）



件数、LNG販売量、平均気温

	見通し	前回見通し	増減	前年度実績	増減
取付メーター数（万件）	1,195.5	1,195.5	0.0（0.0%）	1,181.8	+13.7（+1.2%）
LNG販売量（千t）	1,178	1,202	▲24（▲2.0%）	1,095	+83（+7.6%）
平均気温（℃）	16.2	16.0	+0.2	17.0	▲0.8

ビジョンベースガス販売量（単位：百万m3）

（m³換算）	見通し	前回見通し	増減	前年度実績	増減
都市ガス販売量	14,069	14,293	▲224（▲1.6%）	15,198	▲1,129（▲7.4%）
トーリングによるガス自家使用量	2,392	2,417	▲25（▲1.0%）	1,830	+562（+30.7%）
LNG販売量	1,473	1,503	▲30（▲2.0%）	1,369	+104（+7.6%）
合計	17,934	18,213	▲279（▲1.5%）	18,397	▲463（▲2.5%）

2019年度見通し（連結） 電力販売量・件数

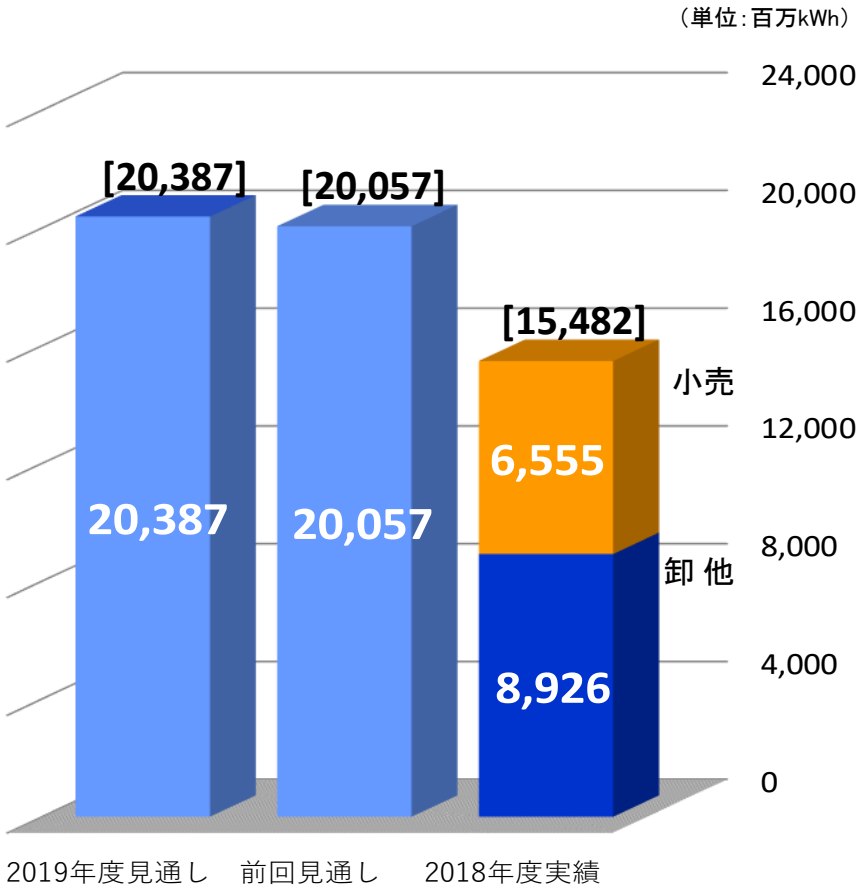
電力販売量

対前回見通し

+330百万kWh (+1.6%)の増加

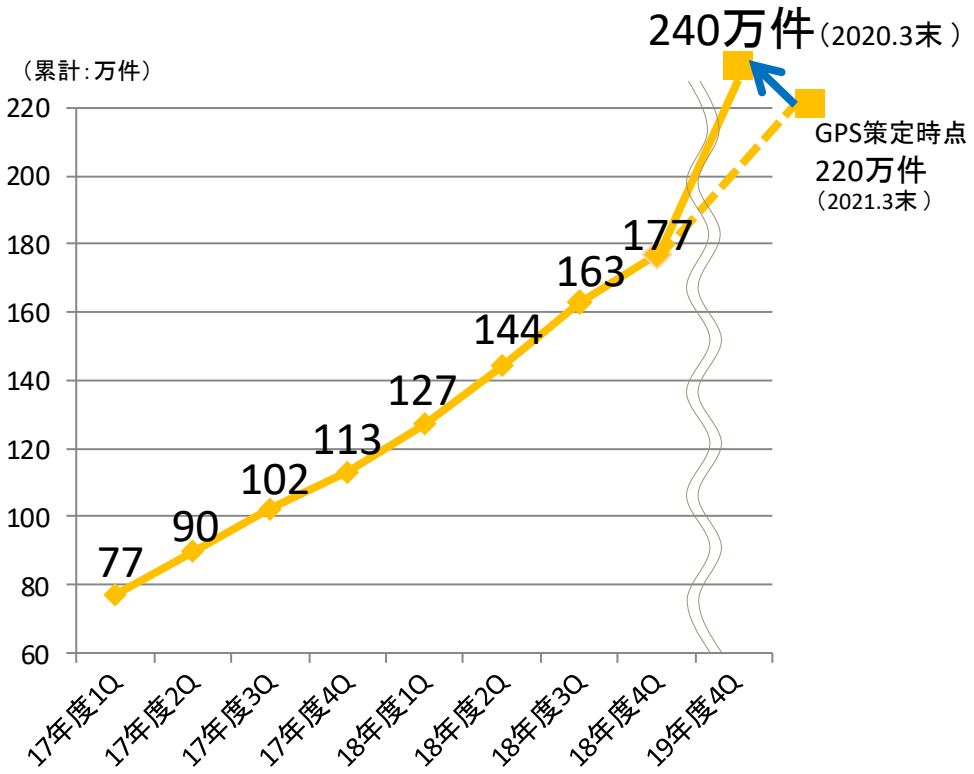
対前年度実績

+4,905百万kWh (+31.7%)の増加



小売件数

	見通し	前回見通し	増減	2018年度実績	増減
小売件数（万件）	240.0	240.0	—（—）	177.4	+62.6（+35.3%）



※小売件数＝供給中件数

※各項目は四捨五入して表示

2019年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前回見通し>

TOKYO GAS

（単位:億円）

	売上高				セグメント利益（営業利益+持分法損益）			
	見通し	前回見通し	増減	%	見通し	前回見通し	増減	%
ガス	13,806	14,121	▲315	▲2.2	1,091	1,090	1	0.1
（都市ガス）	11,618	11,862	▲244	▲2.1	1,046	1,050	▲4	▲0.3
（LNG販売）	1,696	1,772	▲76	▲4.3	41	37	4	8.1
電力	3,571	3,575	▲4	▲0.1	100	100	0	0.0
海外	434	445	▲11	▲2.5	125	139	▲14	▲10.1
（持分法損益）	—	—	—	—	49	45	4	8.9
エネルギー関連	3,600	3,606	▲6	▲0.2	145	145	0	0.0
（ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ）	1,433	1,435	▲2	▲0.1	41	36	5	16.3
不動産（持分法損益含む）	461	459	2	0.4	111	111	0	0.0
その他（持分法損益含む）	1,274	1,315	▲41	▲3.1	63	52	11	21.2
調整額	▲3,406	▲3,571	165	—	▲450	▲457	7	—
セグメント合計	19,740	19,950	▲210	▲1.1	1,185	1,180	5	0.4
（持分法損益）	—	—	—	—	54	50	4	8.0

注記:
- セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
- 「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売を含みます。「エネルギー関連」には、ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。
- セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

※2019年第一四半期決算発表資料より、LNG販売の売上高は内部取引を含まない値としています。

2019年度見通し 経常利益分析　〈対前回見通し〉

TOKYO GAS

2019年度
（見通し）
1,140億円

差異
0億円
（0.0%）

2019年度
（前回見通し）
1,140億円

セグメント利益
+5億円
（+0.4%）

営業外損益
▲5億円
※持分法損益除く

ガス
+1億円
（+0.1%）

電力
0億円
（0.0%）

海外
▲14億円
（▲10.1%）

エネルギー関連
0億円
（0.0%）

不動産
0億円
（0.0%）

その他
+11億円
（+21.2%）

連結調整等
+7億円

●都市ガス　▲4億円
・粗利減　▲28億円：スライド差+10、
数量差等▲38(内気温影響数量差▲30)
（売上高）　▲244億円：スライド差▲100、数量差等▲144
（原材料費等）　+216億円：スライド差 +110（内：為替 +13、油価 +89）、
数量差 +106
・固定費減　+25億円：諸経費減 +20　等
●LNG販売　+4億円：スライド差+6 等

●上流プロジェクト利益減
●持分法投資損益増 +4億円：中下流プロジェクト利益増 等

●船舶　+8億円：費用減による利益増　等

※符号は利益に対する
影響を示す

2019年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前年度実績>

TOKYO GAS

（単位:億円）

	売上高				セグメント利益（営業利益+持分法損益）			
	見通し	前年度実績	増減	%	見通し	前年度実績	増減	%
ガス	13,806	14,137	▲331	▲2.3	1,091	922	169	18.3
（都市ガス）	11,618	12,426	▲808	▲6.5	1,046	898	148	16.4
（LNG販売）	1,696	1,222	474	38.8	41	15	26	167.4
電力	3,571	2,803	768	27.4	100	101	▲1	▲1.3
海外	434	509	▲75	▲14.8	125	153	▲28	▲18.4
（持分法損益）	—	—	—	—	49	21	28	125.3
エネルギー関連	3,600	3,635	▲35	▲1.0	145	111	34	29.6
（ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ）	1,433	1,469	▲36	▲2.4	41	62	▲21	▲33.4
不動産（持分法損益含む）	461	446	15	3.4	111	91	20	21.5
その他（持分法損益含む）	1,274	1,078	196	18.1	63	62	1	0.1
調整額	▲3,406	▲2,986	▲420	—	▲450	▲478	28	—
セグメント合計	19,740	19,623	117	0.6	1,185	964	221	22.8
（持分法損益）	—	—	—	—	54	27	27	93.8

注記:
- セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
- 「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売を含みます。「エネルギー関連」には、ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｿﾘｭｰｼｮﾝ、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。
- セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

※2019年第一四半期決算発表資料より、LNG販売の売上高は内部取引を含まない値としています。

2019年度見通し 経常利益分析　<対前年度実績>

TOKYO GAS

2019年度
（見通し）
1,140億円

差異
+247億円
（+27.5%）

2018年度
（実績）
893億円

セグメント利益
+221億円
（+22.8%）

営業外損益
+27億円
※持分法損益除く

※符号は利益に対する影響を示す

ガス +169億円 （+18.3%）	●都市ガス　+148億円 ・粗利増　+261億円：スライド差 +210、数量差等 +51(内気温影響数量差 +109) （売上高）　▲807億円：スライド差▲338、数量差等▲469 （原材料費等）　+1,068億円：スライド差 +548（内：為替 +81、油価 +373）、数量差 +520 ・固定費増　▲112億円：諸給与・諸経費増▲94（システム稼働に伴う費用増、年金数理差異▲25　等）、減価償却費増▲22　等 ●LNG販売　+26億円：スライド差 +35 等
電力 ▲1億円 （▲1.3%）	
海外 ▲28億円 （▲18.4%）	●販売量増に伴う粗利増 ●フレーム影響等に伴う粗利増（期ずれ） ●固定費増（発電所試運転費用増・小売販売経費増・システム関係費増）
エネルギー関連 +34億円 （+29.6%）	●上流プロジェクト利益減 ●持分法投資損益増 +28億円：中下流プロジェクト利益増 等
不動産 +20億円 （+21.5%）	●器具・工事　+49億円：メンテナンス引当金繰入減による費用減　等 ●エンジニアリングソリューション　▲25億円：システム稼働に伴う費用増　等
その他 +1億円 （+0.1%）	●不動産新社統合効果　等
連結調整等 +28億円	●船舶 +9：稼働増による利益増 等 ●新サービス開始に伴う費用増　▲3億円　等
	●年金数理差異▲6億円 ●連結調整　等
	●受取配当金 +28億円、投資有価証券評価損▲19億円　等

2019年度見通し（連結）キャッシュフローの使途 （設備投資と投融資）

TOKYO GAS

（単位：億円）

		見通し	主な件名	前回見通し	増減	%	前年度実績	増減	%
設備投資	ガス	1,715	製造設備 112（対前回▲8）：日立LNG基地拡張 等 供給設備 1094（対前回▲19）：茨城幹線建設、需要開発 等 業務設備等 508（対前回▲166）：システム関連 等	1,907	▲192	▲10.1%	1,567	+148	+9.4%
	電力	29	発電効率改善工事 等	33	▲4	▲11.9%	63	▲34	▲53.5%
	海外	80	上流（豪州、北米）	84	▲4	▲4.9%	64	+16	+24.0%
	エネルギー関連	216	TGES エネルギーサービス事業 等	250	▲34	▲13.3%	225	▲9	▲4.1%
	不動産	340	田町 等	351	▲11	▲3.3%	328	+12	+3.7%
	その他	35	船舶　等	37	▲2	▲5.9%	29	+6	+19.1%
	調整額	▲47		▲44	▲3	—	▲41	▲6	—
	計	**2,370**		**2,620**	**▲250**	**▲9.5%**	**2,237**	**+133**	**+5.9%**
投融資		**764**	**投融資827（海外含む）、回収▲62**	**780**	**▲16**	**▲2.0%**	**236**	**+528**	**+223.5%**
設備投資・投融資合計		**3,134**		**3,400**	**▲266**	**▲7.8%**	**2,474**	**+660**	**+26.7%**

主要計数表（連結）

TOKYO GAS

（単位：億円）

	2019年度 見通し	2018年度 実績	2017年度 実績
総資産 (a)	25,780	24,281	23,343
自己資本 (b)	11,840	11,590	11,360
自己資本比率 (b)/(a)	45.9%	47.7%	48.7%
有利子負債 (c)	9,230	8,032	7,249
D/E レシオ (c)/(b)	0.78	0.69	0.64
親会社株主に帰属する当期純利益 (d)	770	845	749
1株当たり当期純利益（円/株）	174.06	187.60	164.12
減価償却 (e)	1,670	1,618	1,653
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,440	2,464	2,403
設備投資（Capex）	2,370	2,237	2,087
ROA: (d) / (a)	3.1%	3.6%	3.3%
ROE: (d) / (b)	6.6%	7.4%	6.7%
TEP	292	68	244
WACC	2.9%	3.0%	3.1%
総分配性向	60%程度	60.3%	60.2%

注:
自己資本 = 純資産 − 非支配株主持分
1株当たり当期純利益：2017年度以前の値は株式併合(5株を1株)後として換算
ROA = 純利益/総資産（期首・期末平均）
ROE = 純利益/自己資本（期首・期末平均）
BS関連数値は各期末時点の数値
営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却（長期前払費用償却含む）
総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

■TEP（Tokyo Gas Economic Profit）について
TEP=NOPAT−資本コスト（投下資本×WACC）
・株主資本＝時価総額
・WACC算定諸元(2019年度見通し)
a)有利子負債コスト 実績金利0.86%(税引後)
b)株主資本コスト率
c)リスクフリーレート 10年国債利回 0.06%
d)マーケットリスクプレミアム 5.5% β 値 0.75

3. 参考資料

原油価格・為替レート変動の粗利影響感度（都市ガス）

原油価格JCCが $1/bbl 上昇する場合

（単位:億円）

		収支影響時期
		第4四半期
変動時期	第4四半期	▲1

円ドルレートが ¥1/$ 円安になる場合

（単位:億円）

		収支影響時期
		第4四半期
変動時期	第4四半期	▲11

2019年度　主なトピックス（2020年1月30日まで、プレスリリース等より抜粋）

TOKYO GAS

全般	・東京ガスグループの2019年度の取り組み ～GPS2020達成に向けて～（4/10） ・東京ガスグループ経営ビジョン Compass2030 エネルギーとソリューションを　暮らし、都市、地球の未来に （11/27） ・事業創造新社および事業会社の設立について(12/3)
ガス（G） 電力（P）	・シェル・イースタン・トレーディング社との新たな液化天然ガス（LNG）売買契約に関する基本合意書の締結について（4/5） ・バーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業への参画について （6/4） ・住友共同電力との液化天然ガス（LNG）売買に関する基本合意書の締結について （6/19） ・東京ガスの太陽光発電の余剰電力買取サービスの開始について （7/1） ・電力契約件数が200万件を突破！ ～突破を記念し、キャンペーンを実施～ （8/21） ・新会社「株式会社千葉袖ケ浦パワー」の設立について （9/2） ・真岡発電所からの電力の受け入れについて（10/1） ・LNG（液化天然ガス）の導入から50周年(11/1) ・中国電力と東京ガスによるLNG調達における戦略的連携について（12/12） ・高精度の発電量・建物電力負荷予測に基づく、太陽光発電、蓄電池およびガスコージェネレーションシステムを組み合わせたバーチャルパワープラントの運用開始について(1/8)
サービス（S）	◆エンジニアリングサービス ・三井不動産・東京ガスの連携による日本橋スマートエネルギープロジェクトが始動 ～日本初となる既存ビルを含めた周辺地域への電気・熱の安定供給事業～（4/15） ・台湾・永安（ヨンアン）LNG受入基地拡張計画における基本設計業務の受注について（7/25）*1 ◆その他 ・社会貢献型ショッピングサイト「junijuni sponsored by TOKYO GAS」を開設（4/4） ・アプリ活用による新築マンション取扱説明書類等のペーパーレス化へ 首都圏の分譲マンション「Brillia」に「トリセツ+HOME」を標準採用（6/6） ・「AXiS smart ステルスリモコンシリーズ」における安心入浴サポート機能を搭載した給湯器リモコンの共同開発について（7/11） ・家庭用燃料電池「エネファーム」累計販売台数12万台を達成 （8/6） ・世界最小サイズの高効率家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファームミニ」の発売について（10/10） ・日本橋川沿いエリアに大規模施設等を整備 「（仮称）八重洲一丁目北地区第一種市街地再開発事業」都市計画決定 2025年度本体工事着工予定（10/11）*2
海外（×G）	・エンジーと東京ガスによるメキシコでの再生可能エネルギー共同開発事業について （4/8） ・米国バーズボロ天然ガス火力発電所の営業運転開始について （6/7） ・米国テキサス州およびルイジアナ州における新たなガス田の権益の取得について(12/25) ・タイ王国バンコク中心部での同国初の都市型地域冷房事業および配電事業について ～One Bangkok（ワンバンコク）におけるユーティリティー開発契約の締結～*1(1/10)
デジタル イノベーション	・ネクストエナジー・アンド・リソース社への出資および分散型エネルギー機器を連携制御するIoTプラットフォームの共同開発について ～サービスの一層の充実と再生可能エネルギーの普及をめざして～（7/3）
ESG	・TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）へ賛同表明（5/27） ・シェル・イースタン・トレーディング社からのカーボンニュートラルLNGの購入について （6/18） ・「東京ガスグループ サステナビリティレポート2019」の発行について（8/30） ・「災害発生時の協力に関する協定」の締結について（10/16） ・日本初となるカーボンニュートラル都市ガスの供給開始について(10/23) ・「女性が輝く先進企業表彰」における「内閣府特命担当大臣表彰」の受賞について(12/20) ・「東京ガス 豊洲水素ステーション」の開所について ～日本初、カーボンニュートラル都市ガスから製造した水素の供給～（1/16）
財務・株主還元	・剰余金の配当に関するお知らせ（4/26） ・自己株式取得に係る事項の決定（4/26）、取得完了（7/16）、自己株式の消却（7/29） ・第50回、第51回、第52回、第53回無担保社債発行のお知らせ （5/17） ・第54回、第55回、第56回無担保社債発行のお知らせ（9/6） ・第57回無担保社債発行のお知らせ(12/18)

・ カッコ内はプレスリリース日　・ ＊1 東京ガスエンジニアリングソリューションズによるリリース　・ ＊2東京ガス不動産によるリリース

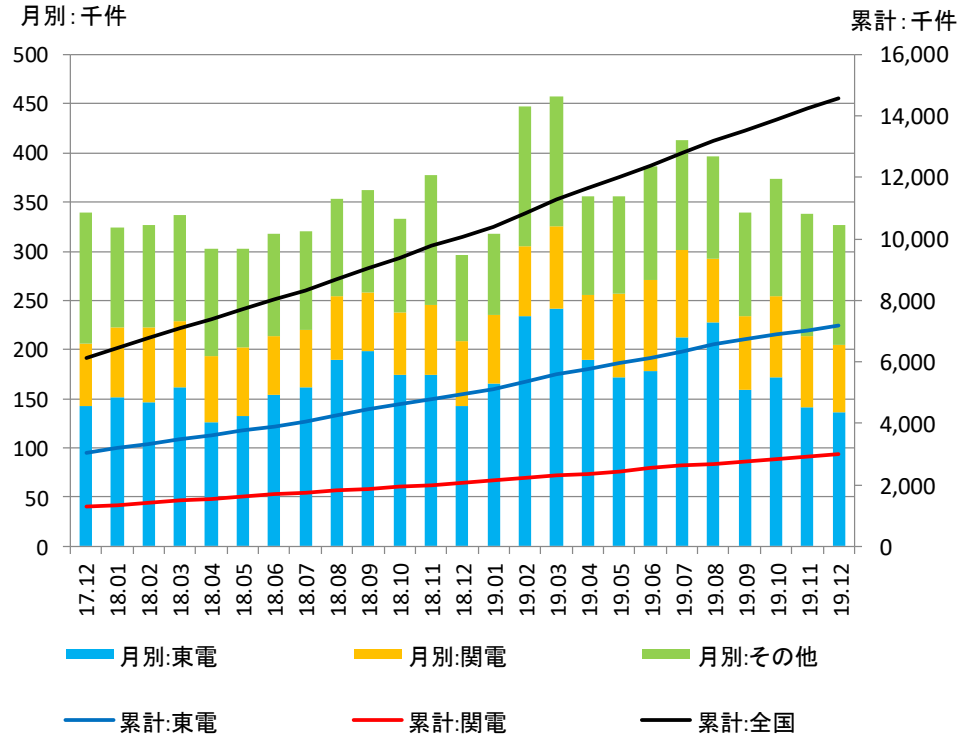
海外プロジェクト

地域	番号	国名	案件名称	投資分野 投資内容		参加年
東南アジア	③	マレーシア	ガスマレーシア	下流	都市ガス	1992
			ガスマレーシア エネルギーアドバンス	中下流	エネルギーサービス	2014
	④	タイ	バンボー	中下流	天然ガス発電	2016
			ガルフ	中下流	ガス配給	2018
	⑤	ベトナム	ペトロベトナムガス販売	中下流	導管・CNG供給	2017
	⑥	インドネシア	センカン	上流	天然ガス生産・液化・販売	2010
			パンジ・ラヤ・アラミンド	中下流	ガス配給・輸送	2017
オセアニア	⑦	オーストラリア	ダーウィン	上流	天然ガス生産・液化・販売	2003
			プルート	上流	天然ガス生産・液化・販売	2008
			ゴーゴン	上流	天然ガス生産・液化・販売	2009
			クイーンズランド・カーティス	上流	天然ガス生産・液化・販売	2011
			イクシス	上流	天然ガス生産・液化・販売	2012

地域	番号	国名	案件名称	投資分野 投資内容		参加年
北米	①	米国	バーネット	上流	シェールガス	2013
			イーグルフォード	上流	シェールガス	2016
			東テキサス	上流	シェールガス	2017
			TGESアメリカ	中下流	エネルギーサービス	2015
			バーズボロー	中下流	天然ガス発電	2017
			アカリオベンチャーズ	その他	オープンイノベーション	2017
	②	メキシコ	バヒオ	中下流	天然ガス発電	2004
			MTファルコン	中下流	天然ガス発電	2010
			エオリオス・エンテーヘー	中下流	再生可能エネルギー開発事業	2019

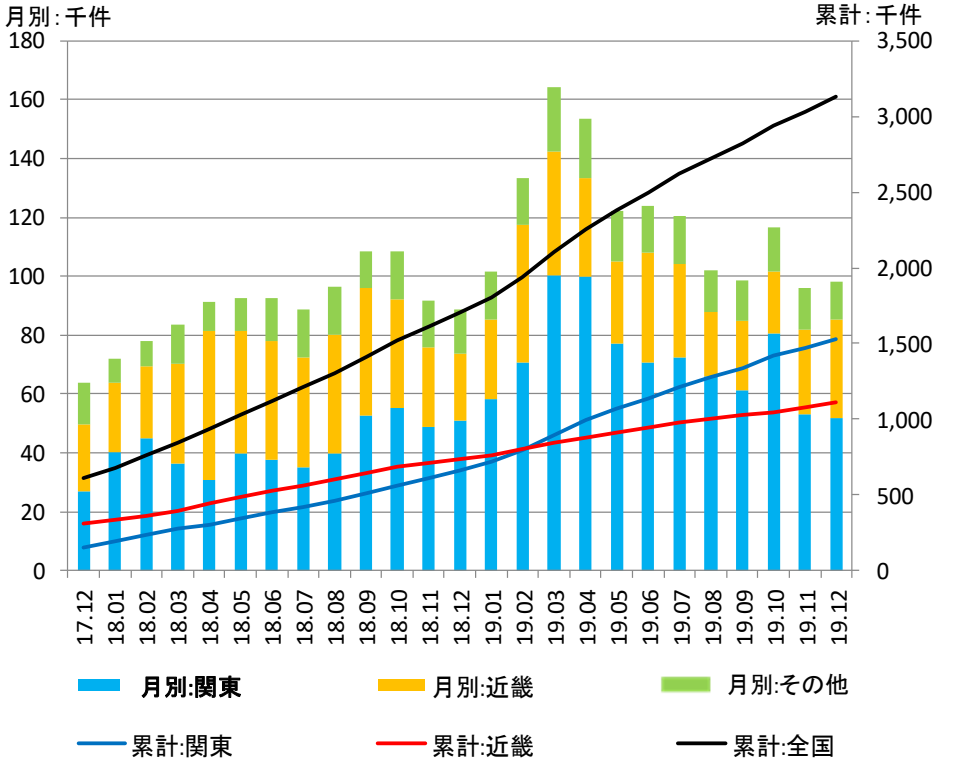
電力・都市ガス　スイッチング件数の推移(公表値) ／ 当社(連結)都市ガス小売お客さま件数

電力のスイッチング件数(申込みベース)



＊電力広域的運営推進機関の公表値に基づく

都市ガスのスイッチング件数(申込みベース)



＊資源エネルギー庁の公表値に基づく

当社(連結)都市ガス 小売お客さま件数(万件)

	2016.6	2016.9	2016.12	2017.3	2017.6	2017.9	2017.12	2018.3	2018.6	2018.9	2018.12	2019.3	2019.6	2019.9	2019.12
件数 (増減)	1,019.9 (－)	1,020.8 (+0.9)	1,025.4 (+4.6)	1,026.9 (+1.5)	1,031.4 (+4.5)	1,028.9 (▲2.5)	1,029.6 (+0.7)	1,020.9 (▲8.7)	1,018.9 (▲2.0)	1,008.9 (▲10.0)	998.2 (▲10.7)	982.1 (▲16.1)	960.7 (▲21.4)	940.5 (▲20.2)	925.9 (▲14.6)

小売全面自由化(2017.4)

TOKYO GAS

＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531